

ことばの学校 01

★★ 中上級

# キムの英語で社会を変えよう！

— English for Creating Social Justice

世界のさまざまな地域で貧困や環境汚染、人権侵害などの社会問題が深刻になっています。しかしその一方で、よりよい社会を創るための草の根の取り組みもどんどん広がっています。このクラスでは、インターネットのオルタナティブ・サイトやブログ、ビデオや映像など、多様な英語のコンテンツを読んだり鑑賞することで、インスピレーションを得ながら、みんなで議論します。会話やエッセーを通して、自分の意見や主張をはっきりと伝える力もつけていきましょう。毎回、さまざまなテーマを扱いますが、受講生からのトピックの提案も大歓迎。皆さんご参加、楽しみにしています！

- 2013年5月～12月 ■ 基本的に隔週火曜日 19:00～21:00
- 全14回/定員15名 ■ 受講料：38,000円

## キンバリー・ヒューズ

(フリーライター/翻訳家/大学講師)



© David Shankbone

日程	
5月 14,28	9月 17
6月 18,25	10月 1,22
7月 9,23	11月 5,19
8月 6	12月 3,17

ことばの学校 02

★ 初中級

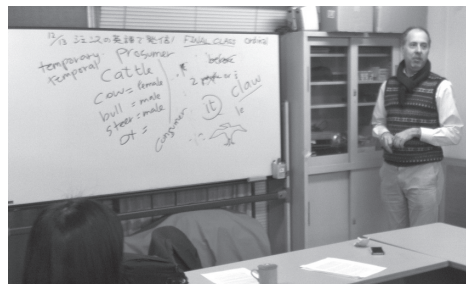
# ジェンスの英語で発信！

自分の意見や思いを英語で発信するチカラを一緒にみがきませんか。このクラスでは、「読む・書く(発信する)・話す」を一連の流れとして、英語を学んでいきます。クラスで議論して決めたテーマで受講生が簡単な文章を書き、その文章についてみんなで議論します。講師は議論の中で、実用的な語彙や文章の書き方、上手な表現のコツなどを伝授。自ら発信するための基礎力づくりを、丁寧にサポートします。扱うテーマは食べ物や日常のニュースから、平和や環境、教育などの社会問題まで。メールやブログ、ホームページなどでの発信もめざします。

- 2013年5月～11月 ■ 隔週木曜日 19:00～21:00
- 全14回/定員15名 ■ 受講料：38,000円

## ジェンス・ウィルキンソン

(翻訳家)



2012年度のクラスの様子。クラスでは毎回一つのテーマで短い作文の発表を行い、ジェンスさんがそれぞれの作文やテーマに関連した表現について丁寧にアドバイスします

日程	
5月 16,30	9月 5,19
6月 13,27	10月 3,17,31
7月 11,25	11月 14,28
8月 8	

ことばの学校 03

★★ 中級

# 世界のニュースから国際情勢を読み解こう

インターネットや雑誌、新聞の英文記事を読み、その背景も学びながら日本語で議論するクラスです。開発と貿易、紛争と人権、労働、環境やエネルギー問題など、国際的なトピックから、参加者とともにテーマを選んでいきます。英語の文章を読み解く力、日本語らしく訳す力、そしてあふれる情報を判断する力を身につけると同時に、さまざまなものの見方や考え方に会うことができます。

- 2013年5月～2014年1月 ■ 隔週火曜日 10:30～12:30
- 全15回/定員15名 ■ 受講料：40,000円



井上礼子  
(ハルシク代表理事)



松元千枝  
(ジャーナリスト/活動家)



大屋定晴  
(都留文化大学他 非常勤講師)

日程	
5月 28	10月 1,15,29
6月 11,25	11月 12,26
7月 9,23	12月 10
9月 3,17	1月 7,21

※各講師が4～5回ずつ担当します。

ことばの学校 04

★★★ 上級

# 武藤一羊の英文精読

講師とともに、一冊の本をじっくりと読み込むクラスです。ことばの一つ一つの解釈やそこに込められた作者の思想を読み解きながら、講師と受講生で内容について議論を深めていきます。今年は、汪暉 (Wang Hui) の『革命の終わり—中国と近代の限界』("The End of the Revolution—China and the Limits of Modernity") を読みます。

- 2013年5月～2014年1月 ■ 隔週水曜日 19:00～21:00
- 全15回/定員15名 ■ 受講料：45,000円

## 武藤一羊

(ピープルズ・プラン研究所 運営委員)



◆テキスト: Wang Hui, "The End of the Revolution—China and the Limits of Modernity" Verso, 2009

※テキストは事前に各自でご購入ください。

今年は中国の第一線の近代思想家、評論家として知られる汪暉 (Wang Hui) の評論集、"The End of the Revolution—China and the Limits of Modernity" を読んでみます。汪暉は日本でも世界でも最もよく知られた中国の批判的知識人の一人。1989年天安門民主化デモを主導した改革思想が、結局アメリカに回収される近代主義であった苦い教訓を噛みしめて、学問世界に戻った一群の知識人の一人でした。図書館に戻った汪暉は、中国思想史にとりくみ、その成果が大著『中国現代思想的興起』に結実しましたが、彼は「象牙の塔」に籠らず、夥しい評論や編集活動をつづじて、今日のネオリベラリズムに対決する立場からの中国近代=中国革命の批判的総括へと歩みを進めました。この本は2009年発行、「非政治化された政治—東から西へ」、「1989年と中国におけるネオリベラリズムのルーツ」など3編7論文からなる論文集。中国がもつばら、台頭する軍事的脅威として演出されている現在、汪暉の洞察と分析によって中国の別の姿を浮かび上がらせたいと思います。

●主著:『潜在的核保有と戦後国家—フクシマ地点からの総括』社会評論社 2011/『アメリカ帝国と戦後日本国家の解体 新日米同盟への抵抗線』社会評論社 2006 ●共訳書: ジャイ・セン他『世界社会フォーラム 帝国への挑戦』作品社 2005

日程	
5月 15,29	
6月 12,26	
7月 10,24	
9月 11,25	
10月 9,23	
11月 6,20	
12月 4,18	
1月 15	